

わたしは

ミン



米内山陽子

登場人物

齊藤直（さいとうすなお） 縫製工場の所長

持田春海（もちだはるみ） オートクチュール部新人

岡村歌子（おかむらうたこ） オートクチュール部ベテラン

相楽鈴枝（さがらすずえ） オートクチュール部エース

小谷伊織（こたにいおり） 取引先のデザイナー

わたしはぬう

わたしはかがる

わたしはまつる

わたしはつくろう

まっすぐに

ジグザグに

ぐにやぐにやでも

わたしはつなぐ

わたしはミシン

## 序

齊藤 本日は、ようこそおいでくださいました。皆様のお運び、心より歓迎致します。ただいまよりご覧いただきますのは、エンタテイメントショーでございます。こちらに控えし五人の俳優が、演劇で皆様をおもてなし致します。どうぞ、携帯電話は電源からお切りくださり、今この場のみ浮き世からの縁をお切りください。

心の準備はよろしいですか？

それではチタキヨ第四回公演「わたしはミシン」開幕でございます！

音楽

舞台を整える俳優たち

縫製工場の休憩室。

斉藤が自分の診断書を眺めてうなだれている。

春海が入ってくる。

眼帯、包帯、絆創膏をしている。

春海 失礼します。

斉藤 ああ、あれ

春海 ……あの、今日ですよね。契約書……

斉藤 ああ、今日ですね。ちょっと待ってくださいね

春海 はい。

春海は隅っこへ座る。

斉藤は契約書を探しに去る。

春海はお腹を触る。

怪我が痛む。

歌子と鈴枝が入ってくる。

二人は話しながらお茶を入れ、タッパーに入った果物を出し、工程表を見ながら食べる。

歌子 間に合う？

鈴枝 一〇分しっかり休んで、きっちり作業スタートして、フロントの地縫いを三〇分で済ませましょう。

これはわたしやります。歌子さんは最初の十五分は袖やってください。十五分で終わります？

歌子 終わる。

鈴枝 そしたらポケット、カバー、ベルトの芯張り、地縫いお願いします。それを一五分。できます？

歌子 できる。

鈴枝 バックは終わってるので、そこから襟やりますけど、細かい作業は歌子さん得意なのでお願いしますます。

歌子 わかった。

鈴枝 その間、前と後ろくつつけるのはやれますから。三〇分。いけます？

歌子 時間余るくらい

鈴枝 ステッチのセッティング済んでます？

歌子 あ、何番だっけ

鈴枝 一四番。

歌子 やつとく。

鈴枝 小物のプレス。

歌子 やつとく。

鈴枝 あとはパーツを付けて、これは歌子さんやっってくださいね

歌子 がってん。

鈴枝 ボタン揃ってます？

歌子 バツチリ。

鈴枝 どのくらいかかります？

歌子 襟、ボタン、ポケット、ベルト、六〇分。

鈴枝 三〇分

歌子 きついでよ

鈴枝 終わりませんよ。

歌子 まじか

斉藤は契約書を手に戻ってきている。

歌子 誰だよこの仕事持ってきたの

二人は戻ってきた斉藤を見る。

斉藤 ごめんね

鈴枝 無理な仕事は受けなくて先月約束したばかりじゃないですか。

斉藤 ごめんね

歌子 明日うちの子運動会なんですけど

斉藤 それは行って。

鈴枝 間に合いませんよ。明日歌子さんが休んだら、これわたし一人でやるんですか？

斉藤 色付ける

鈴枝 金額の問題じゃないんです。納期の問題。

歌子 わたしには？

斉藤 え？



歌子 今日だけでも結構タイトだよ？

斉藤 えー

歌子 出ないなら雑にやるけど

鈴枝 仕事なくなりますよ

歌子 やんないよ。やんないけどこれしんどいよ。

斉藤 少しは付けるよ。それでお願い。

歌子 わかった。運動会終わったら来るよ。

鈴枝 お願いします。(斉藤に) オートクチュール、二人じゃもう間に合わないですよ。

斉藤 そうね

鈴枝 ラインの人、少し回してくれたりしないんですか？

斉藤 そうね

鈴枝 このままだと歌子さんちが農繁期に入ったらもう無理ですよ

斉藤 そうね

鈴枝 次に「そうね」って言ったら殴る

歌子 すーちゃん。

斉藤 (意を決して) あのね……

歌子 ……やだ

齊藤 まだ何にも言っていない

歌子 顔でわかる。やなこと言う。

齊藤 やじゃない、むしろいいこと。

歌子 言って。怒らないから。

齊藤 新しい人。(春海を指す)

春海 はじめまして。

歌子 いつからいたの

鈴枝 ずっといましたよ

歌子 なんてなにも言わないの

鈴枝 工程確認のほうが重要でしょ

歌子 あなたも何でなにも言わないの

春海 忙しそうだったので

歌子 気付かないあたしがおかしいの？

齊藤 持田……

春海 春海です。持田春海

斉藤 さんです。ドレーピングできるんだよね？

春海 あはい

斉藤 (春海に) こちらが歌子さん、鈴枝さん。

歌子 何事？ その怪我

鈴枝 相楽です。

歌子 なにがあつたらそうなるの？ 春ちゃんって呼んでいい？

春海 あはい

斉藤 オートクチュール部門の担当です。

歌子 ただ事じゃない怪我してるけど何事？

春海 よろしくお願いします

歌子 ねえねえ何事？

斉藤 歌子さん落ち着いて

鈴枝 そろそろ始めないと今日も間に合いませんよ。(立ち上がる)

歌子 気になるーその果物食べていいからー

歌子と鈴枝は去る。

春海は斉藤の対角線にしようとする。

齊藤 うまくやれそうですか？

春海 やるしかないです

齊藤 無理はしないでください。とは言え、ご覧の有り様なので、すぐにでも働いていただけるとこんなに嬉しいことはないんだけど、

春海 手は動きますし、足も大丈夫です。ミシン踏めます。

齊藤 目は？

春海 ああこれは……痣を隠してるだけなので。

齊藤 ……契約書、書きましようか。

春海 ありがとうございます。

齊藤 ペンありますか？

春海 ペン、えーと

春海は自分の鞆を漁る。

が、出てこない。

齊藤が胸に挿していたペンを渡そうとすると春海は後ずさる。

斉藤 ……大丈夫ですから

春海 ごめんなさいわかってますごめんなさい

斉藤 大丈夫ですよ謝らないで。どうしようかな（考えて）じゃあ、こうは？

春海 投げてください

斉藤 えっ

春海 大丈夫です慣れてますんで

斉藤 いやー……

春海 主人にね、「パン食うか」って言われて「うん」って答えて、そしたら「ほら」って床に投げられて「食えよ」って、あの、袋に入ってるやつじゃないんですよ。トングでトレイに乗せて買うタイプの

剥き出しのパンをね、床に投げて「食えよ」って「這いつくばって食えよ」って言われたりしたんです。投げてください。

斉藤 いや。それは

春海 わたしみたいなもんにはそれくらいがちょうどいいんです。

斉藤 ……

斉藤、机の上に契約書とペンを置く。

春海 ごめんなさいわたし……！

斉藤 (苦笑)

春海 これ

斉藤 はいすいません

春海 かわいい。

斉藤 あ、すいません

春海 書きます。なので、できるだけ距離をとってもらえますか？

斉藤 わかりました

春海 すいませんめんどくさい女で。

音楽

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

## わたしはミシン（おためしサンプル）

---

2016年11月1日 初版発行

著 者 米内山陽子 © 2016年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-24-9529

---